

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2025年10月1日 265号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

持続可能なモデル都市へ 西永氏に聞くレダの水産事業ビジョン



【水産アドバイザー西永豊光氏より】
水産事業に関するご質問への返答をQ&A形式でまとめました。

Q1 ホールセラーと養殖の関係性とは？ 養殖を行う意義は？

A 事業としての側面では、ホールセラーは、生産地（レダ）と消費地（アスンシオンなど）を結ぶプラットフォームとしての役割が期待されています。ホールセラーを設置することで、物流が円滑になり、事故、時間、経費などのリスクや顧客からのクレームを吸収するメリットがあります。

レダでの養殖の意義は、御言による宗教的意義とともに、単にビジネス効率を追求するだけでなく、地域経済



人工孵化に適した親魚を探し出す作業

A 親魚を育てるための環境が良くないため、ストレスによって適切な産卵ができていないと考えられています。具体的には、既存の水槽では給排水や循環システムが不十分であり、本来は3か月前から親魚が別水槽で管理されるべきです。また養殖池

Q2 親魚が毎年産卵不良を起こす原因は？
A 親魚を育てるための環境が良くないため、ストレスによって適切な産卵ができていないと考えられています。具体的には、既存の水槽では給排水や循環システムが不十分であり、本来は3か月前から親魚が別水槽で管理されるべきです。また養殖池

の自立、持続可能なモデル都市の形成というNGO活動における使命に基づいています。ビジネス効率だけを考えるならアスンシオンなどがある利。それをあえてレダで養殖し、レダの自立という目標達成をすることは「地球村のモデル」として共生共栄のかたちを模索したものであり、文総裁の提唱するエデンの園のモデル都市を形成するという構想にも繋がります。教育や地域社会への貢献も重要な意義として捉えられています。

これは26年間の精誠のなかで導かれてきた方向性でもあります。南北米福地開発協会と命名された背景には、南北米の平準化、南北統一の理想的動向があり、その側面からも北米で開拓された水産ホールセラーのかたちを南米で展開する意義も重要です。



の循環システムの不備によるところの水質管理ができていないことが原因として挙げられています。また、外敵（ワニ、鳥）によるストレスも影響している可能性があります。

Q3 事業における人材の問題点は？

A 現在はNGOの活動要員が中心であり、営利事業に必要な人材が不足しています。特に、ホールセラーと養殖の関係性を構築し、親魚の問題に取り組む人材が求められています。

進によって出す利益とのバランスを見ながら人材を増やしていくことが重要です。

Q4 事業を黒字化するための課題は？

A 財団として、NGO活動内としての損益分岐は、4000尾＋在庫6000尾販売？（1年間在庫の5分の1）。ロマン・プラタに配送サービス拠点を設け、コンセプションなどの市場を開拓することで自活生産部門の黒字化を目指しています。餌代の占める割合は必要経費の58%で、餌そのものの値段より輸送コストの高騰が大きな課題。自社輸送体制の構築がコスト削減の重要な提案で、これにより、外部の輸送業者に支払って（次面につづく）



また販売拡大のために流通拠点（ロマン・プラタなど）が不可欠。そのための運搬車両、ドライバー、流通拠点を管理する人材が必要。水産関係の経験を持つ人材を発掘する必要があり、候補者もでてきています。候補者の生活基盤と販売促進



●龍シオン君、川久保夫妻、晋英さんのお母さんと共に。8月21日



●水落さんが160匹の目標を達成！2025年8月



●にぎやかに、7月・8月生まれの誕生会。8月11日



●アスンシオン大の学生が水生生物調査のため滞在。8月18～20日

水産事業（一面よりつづく）

（支払って）いたコストを大幅に削減できる見込みで、アスンシオンからロマ・プラタまで自社輸送となれば、現状コストの40%を削減できます。

Q5 日本からの具体的支援として何が期待されているか？

A 日本からの支援としては、資金援助だけでなく、車と運転手といった人材の必要性が強調されます。また、日本側のメンバーによる事業への関心と協力も期待されています。

Q6 将来的に稚魚と養殖はどのような枠組みで考えられているか？

A 将来的には稚魚はレダ、養殖はアスンシオン周辺という枠組みが検討されている可能性があります。しかし、それは第4フェーズの段階です。まずは、レダでの基盤確立が優先されています。

Q7 パクーの南米市場は飽和しているのでは？

A パクーの南米市場が飽和しているのではないかと懸念がありますが、インフラを整備し、適切な販売戦略を展開することで、市場はまだまだ拡大する可能性が示唆されています。

Q8 NGO活動と営利活動

のバランスは？ また営利法人はいつ頃？

A NGO活動と営利活動のバランスは、アンテナショップの運営を通じて調整される計画です。これまで非営利事業

のみの段階から、営利事業に必要な人材を補強しながら、第4フェーズの段階で法人格を持った営利会社を設立する計画です。

将来的には、事業拡大して産業化にまで視野に入れています。その一環としてアスンシオンにおける養殖も計画されるべき項目になります。

Q9 現在の養殖場の生産能力は？それを向上させるためには何が必要か？

A 現在の養殖能力は約3万匹程度ですが、循環式システムや適切な水質管理設備を導入し、給排水システムを整備することで30万匹まで向上する可能性があります。大前提として電力供給の安定化も重要な要素となります。

Q10 ロマ・プラタの拠点設置による効果（メリット）は？

A ロマ・プラタに拠点を設けることで、次のような効果が期待できます。

1 安定供給の実現



拠点到ストックヤードを設

けることで、天候や道路事情に左右されず、安定的な商品供給が可能となります。

2 販路拡大と営業効率の向上

拠点を中心に営業活動が展開できるため、十分な時間を営業に充てられ、販路拡大が見込めます。

3 コスト削減と職員の負担軽減



宿泊費や外食費の削減につながるほか、十分な休養が取れる環境が整います。

4 ホールセール事業の成長加速

拠点設置により供給量の目標設定に対する実現性が飛躍的に向上し、顧客獲得の可能性も広がります。これにより、ホールセール形態への移行という大きな事業転換（ゲームチェンジ）が可能となります。

拠点の設置は単なる物流効率化にとどまらず、事業全体の安定性と成長性を高める大きな転換点となります。結果として、顧客への安定供給、販路拡大、コスト削減、さらにはホールセール事業の確立へとつながる重要な施策であると考えます。

年内の拠点設置を目指して、いま計画を進展中です。■

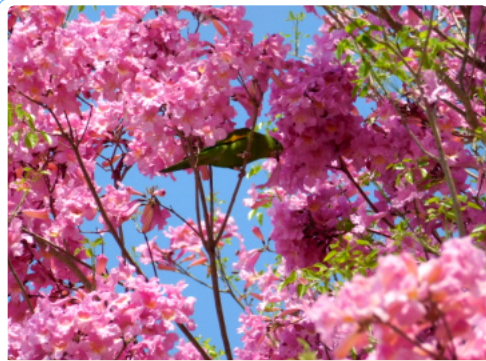
森川道子さん



当法人の理事で、レダプロジェクトの発展に大きく尽力してこられた森川道子さんが、9月10日、病気のため、東京都内の病院で逝去されました。82歳でした。

森川さんは、レダの開拓草創期から今日に至るまで、物心両面で、特に人材支援と経済的貢献をもってレダプロジェクトを全力で支え続け、比類のない功績を積み重ねました。

体力面では必ずしも万全とは言えない森川さんでしたが、



ピンクラパーチョ (モモイロイパー)



給水塔竣工の日、協力者たちと共に。2004年8月3日

そのハンディをほとんど表に出すことなく、強靱な行動力であらゆる人を愛し、育て、願われた以上の結果を出し、レダのエンジンであり続けました。森川さんは、初期の頃からご自身が育んだ協力者たちを伴って、日本からレダまでの長い旅を幾度となく繰り返し、レダの公館周辺に咲くピンクのラパーチョの多くが、その方々が記念に植えて、大きく育ったものです。

提唱者ご夫妻の願いを受け、先に逝かれたご主人の分までご自分が成し遂げようと決意して歩まれた森川さん。同じ志を持つ全ての者たちの心情に火を点し続けています。

レダで活動するチャパボラの皆さんに「レダに来た理由」を尋ねました。この三人は、中期ボランティアとして去る5月にレダに到着し、研修期間を終え、日々元氣よく活動に励んでいます。(聞き手:坂西)

● Iさん 26歳 学生

レダに行こうと思った理由は二つあります。一つは自然と共生するとはどういうことか深く考えたいと思ったからです。環境に負荷を与えて無理やり発展・開発するのではなく、折り合いをつけながら自然とうまく共生して行く道を探りたいと思いました。

二つ目は提唱者ご夫妻のみ跡を辿りたいからです。ご夫妻が直接来られ、精诚を立てていかれた地で歩むことで、ご夫妻の心情を体験していきたいと思ったからです。

チャパボラに聞く レダに来た理由

実際にレダに来て手付かずの自然の素晴らしさを感じました。どこをみても美しく、日本で見えるものと全然違って、自然を通して神様の愛を日々感じています。

また、20年以上も初代開拓者の先輩方が綿々と引き継ぎながら開発してこられた凄みを実際に生活や作業する中で感じました。飲み



レダの釣り大会にて、チャパボラの皆さんとレダのスタッフ。8月24日

でも理想郷を目指して働く方々の姿に触れ、自分も志を持って生きたいと、勇気をもらいました。日本にいた頃は将来が見えず、志も持たず過ごしていましたが、ここで「為せば成る」という言葉の意味を実感しました。今後は担当している養豚プロジェクトを通して、課題解決や利益に繋がる取り組みを進めたいと考えています。また、文先生が掲げた四種の魚を釣る目標を達成したいです。

● Aさん 22歳 学生

今回レダに来たのは、去年のレダ聖地ツアーに参加したことがきっかけです。レダやパラグアイ中の聖地を巡りながらいつかまた来たいと思うようになりました。一番大きくは南米摂理へ貢献したいという思いが動機にありました。

水などもなく、暑さや蚊が多く大変な中でも、文先生のみ言を胸に刻み、開発されてきたその精诚を忘れてはいけなないと思えました。そして私自身、少しでも引き継いで力になりたいと思いました。

他にも文先生の言われた四種類の魚を釣りたいですし、大きい魚を釣って記録を打ち立てたいです。

● Tさん 20歳 学生

私がレダに来た理由は、私自身の出身がパラグアイであり、パラグアイの自然や文化を知り、何か貢献したいという思いからです。実際に来てみて、過酷な環境の中

で成長を実感しています。時間が本当に早く過ぎるなかでチャパボラとしてできることには限りがありますが、与えられた責任分担においてしっかり貢献していきたいと思っています。



天体観測

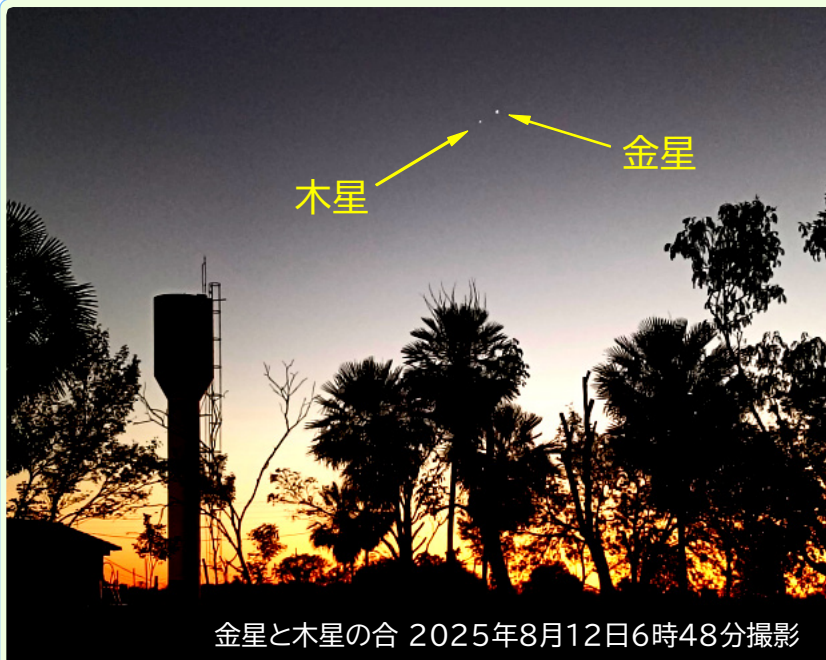
今年は8月になっても曇りの日が多く、雨すら降るので、なかなか乾季が来たという感じにはなりません。星空の撮影もままならない状態ですが、2つの写真を紹介いたします。

1枚目は、金星と木星の合(2つの星が見かけ上近づく現象)の写真です。惑星としては一番明るい金星と二番目に明るい木星のコラボです。レダの明け方の空

との組み合わせがとても美しいと思います。

2枚目は、プレアデス星団です。4月号で紹介させていただいたオリオン大星雲に続き「DWARF3」による第二弾の写真です。日本では昴(すばる)とも呼ばれ古くから親しまれている星団です。いくつかの星が集まっている姿から、「統一されている」「一つに集まっている」という意味の言葉が付いたとのこと。

夜中にはすばるを眺めながら、私たちの行くべき姿に思いを馳せるのも一興ですね。(山崎茂章)



金星と木星の合 2025年8月12日6時48分撮影



プレアデス星団(昴) 2025年8月31日3時32分~4時32分撮影

新鋭車両

8月20日、レダに新戦力が加わりました。いすゞのD-MAXというピックアップトラックです。この車は一人の壮年の方の篤志によるものです。レダの難しい環境で、皆が献身的に頑張っていることをよく理解され、支援してくださいました。購入にあたり、当地方での使用に最も適する車種を吟味・選択しました。



レダの新車両、ISUZU D-MAX 3.0

特徴	パンタナールでの利点	D-MAX 3.0
3.0L ディーゼルエンジン	高トルクでぬかるみ・登坂にも強い。燃費性能も良く、燃料の補給が難しい地域で有利。	
高い最低地上高と4WD機能	冠水地や悪路を走破するのに最適。切り替え式の4WDで柔軟な運転が可能。	
耐久性・信頼性	頑丈なシャシーと部品。過酷な気候でも壊れにくく、整備もしやすい。	
積載性	後部荷台に物資や道具、燃料タンクなどを積める。農作業や観察機材にも対応。	
整備性	パラグアイ国内や周辺国でD-MAXは比較的流通しており、部品調達や修理も容易。	

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒182-0021

東京都調布市調布ヶ丘
2-15-1 ビリアベルデ 407

電話: 042-449-0183

支援金振込口座: ゆうちょ銀行
記号10280 番号6 1 349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>パンフレット: 当会の紹介と入会申込書
<https://asd-nsa.com/sk/> (←タップ可)パンタナール通信
電子版 (Blog)

- ♥韓国語 한국어
- ♥スペイン語 Español
- ♥ポルトガル語 Português
- ♥英語 English
- ♥日本語 にほんご



左のQRコードからどうぞ。
ご感想送信、紹介パンフも。

編集者のひと言
▼驚き! パクーは30万尾生産の可能性があると。この事業、世界のどこからでも同参可。▼レダ開拓の烈女がまた一人天に召されました。レダに残る施設や樹などを見るとき、森川さんの真剣な顔を想い起こすでしょう。▼パンタナールのピュアウォーター。清愛の聖地レダで、天は何を生み出したのか。

LINE公式アカウント

レダの日常・日本の非日常

レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。



友だち追加はこちらから!